

南アジアの 危険な核

印パで高まる 核先制使用のリスク

核不拡散条約（NPT）に入らないまま、1998年に相次いで核実験を行ったインドとパキスタン。両国は今も大小の軍事衝突を繰り返し、核軍拡競争を続けていることから、地球上で最も核戦争勃発のリスクが大きい地域とも言われています。南アジアの核問題は今後どうなるのか。国際的な専門家の解説、意見を聞ける貴重な機会です。

同時通訳付
入場無料

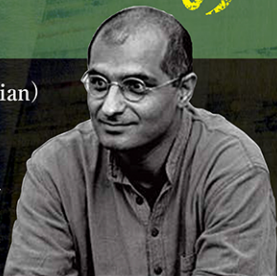
事前申込不要

講師 ジア・ミアン博士 (Dr. Zia Mian)

米国プリンストン大学の
「科学とグローバル安全保障プログラム」共同ディレクター

プロフィール

パキスタン出身の物理学者で、核兵器に関する外交・安全保障政策にも詳しい。英国のニューカッスル大学で博士号取得。1997年から、米国プリンストン大学の「科学とグローバル安全保障プログラム」に参画。現在は、学術誌Science and Global Securityの共同編集長。核兵器の材料となる高濃縮ウランとプルトニウムの蓄積量の国際調査や、蓄積量削減に向けた提言をしてきた「核分裂性物質に関する国際パネル (IPFM)」の共同議長もつとめる。



2017 **2/2** 木

時間 18:30 ~ 20:00

場所 長崎大学医学部 ボンベ会館 セミナー室
長崎市坂本1丁目12-4

主催 長崎大学核兵器廃絶研究センター (RECNA)
〒852-8521 長崎市文教科 1-14

TEL 095-819-2164 FAX : 095-819-2165

URL <http://www.recna.nagasaki-u.ac.jp/recna/>

共催 核兵器廃絶長崎連絡協議会 (PCU-NC)



核兵器廃絶
長崎連絡協議会
PCU-Nagasaki Council

